

「エンホルツマブベドチン療法」について

この治療法は、尿路上皮癌に対して行われる治療法です。

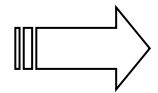
1. 投与方法

薬剤	効能または使用目的	投与時間
グラニセロン+ デキサメタゾン	吐き気予防	15分
エンホルツマブベドチン	抗がん剤	30分
生理食塩液	点滴ルートの洗浄	約5分

2. スケジュール

エンホルツマブベドチン療法は28日サイクルで抗がん剤を投与していきます。初日、8日目、15日目に抗がん剤を投与すると残りの13日間は「休薬期間」といい、体調の回復を待ちます。その後同様にして治療が進んでいきます。

	1サイクル目					
	1日目	2日目～7日目	8日目	9日目～14日目	15日目	16日目～28日目
投与日	○		○		○	
休薬日		○		○		○

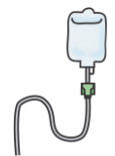


3. 特徴

●エンホルツマブベドチン

作用: エンホルツマブベドチンはがん細胞の表面にあるネクチン-4と呼ばれるタンパク質に結合して、がん細胞の内部に薬物を送ることにより、がん細胞の増殖を抑制します。

注意事項: 点滴中に痛みや違和感があった場合はお知らせください。



4. 副作用

抗がん剤治療によって起こりうる主な副作用の種類、予防法、そしてそれが出現したときのひとまずの対応方法を知ることが副作用対策の第一歩です。ここでは比較的高頻度に出現する副作用と頻度は少なくとも注意が必要な副作用(有害作用)について掲載しました。

(ただし、頻度や強さには個人差があることをご理解の上で、参考にさせていただきたいと思っております。)

間質性肺炎

間質性肺炎は、肺が炎症を起こし機能が低下する病気です。確率は低いですが、放置すると重篤化する危険性があります。症状としては**息切れ、呼吸困難、空咳、発熱**などが起こります。また、この症状は肺に病気を持っている患者さんほど起きやすいことが分かっています。上記の症状が出た場合は自己判断せずに早めにご相談ください。

対策: 初期症状は風邪によく似ているため自己判断せずに早めにご相談ください。



白血球減少

白血球は体の外から侵入してきた細菌等に対して体を守ってくれる(免疫反応)役割があります。白血球が少なくなると細菌等による感染が起こりやすくなり、感染すると発熱や倦怠感などの自覚症状が現れてきます。場合によっては入院治療が必要な場合もあります。

好発時期: 抗がん剤を投与後15～21日目くらいに減少のピークを迎え、28日目くらいには回復します。

対策: 細菌は手を介して口から入ってくるケースも少なくありません。手洗い、うがいを心がけましょう。

外出時はマスクを着用してください。

虫歯が原因になることもあります。虫歯のある方は抗がん剤治療を行う前に治療をしておくことをお勧めします。

好発時期に38℃以上の発熱があった場合はご連絡ください。



血小板減少

血小板は血液を固まりやすくする働きがあります。血小板が少なくなると出血しやすくなります。

好発時期: 抗がん剤を投与後15～21日目くらいに減少のピークを迎え、28日目くらいには回復します。

症状としては、あざが出来やすい、鼻血などの粘膜からの出血が起きやすくなったなどです。

対策: ケガや転倒の危険性がある作業は避けましょう。

歯ブラシは毛の柔らかいタイプを使うと良いでしょう。

しびれ(末梢神経障害)

末梢神経障害は抗がん剤が知覚神経や運動神経を障害することで発症します。症状は手、足先から出てくることが多く、しびれ、感覚麻痺などが初期症状として出てきます。症状が進行すると筋肉に力が入りにくくなり、つまずきや転倒の原因にもなります。ほとんどの場合治療が終了すれば回復してきますが、時間がかかる場合もあり、症状の強さに応じてお薬を処方することもあります。

好発時期: 抗がん剤点滴終了後数週間程度で出ることが多く、治療継続と共に症状が強くなっていく傾向があります。

自覚症状としてはボタンがかけにくい、物を落とす、1枚膜を張ったよう、つまずきやすいなどです。

対策: 早い時期に発見した方が回復も早いので、日ごろから注意してください。

症状があるときには強い刺激を与えないよう心がけてください。水を使うときには手袋を使用するなど。

しびれの症状は我慢せず、しびれの強さや範囲、日常生活で困ることをお知らせください。

吐き気・嘔吐

好発時期: 治療当日から数日間

症状の出方は個人差があり、数日後から出てくる方や、症状が7日間程度続く方もいらっしゃいます。



対策: 抗がん剤による吐き気の強さに応じて事前に吐き気止めの点滴を行います。

症状にあわせて吐き気止めを処方させていただきます。上手くコントロールできない場合はお伝えください。考えすぎるとそれだけで症状が出てくることがあります。リラックスしてあまり考えすぎないようにしてください。

食事は無理せず、食べられるものを少量取っていただいても結構です。

水分(水、スポーツドリンクなど)はなるべく取っていただいた方がよいでしょう。便秘の予防にもなります。

便秘は吐き気の原因にもなります。必要に応じて下剤を服用することをお勧めします。

部屋の空気を入れ替えたり、趣味を楽しんだりすることで吐き気が楽になることもあります。

食欲不振

好発時期: 治療開始から数日程度で一時的に低下してくることがあります。

対策: **食欲がない時には無理をせず、食べられるものを可能な範囲でバランスよく食べましょう。**

症状が長続きするときはご相談ください。

皮膚障害

好発時期: 治療を始めて数日後から1カ月間にあらわれることが多いといわれています。ただし1カ月以上経ってから起こる可能性もありますので、注意して観察しましょう。

主な症状は発疹、紅斑、水疱、丘疹、かゆみ、発熱(38℃以上)、動悸、目の充血、まぶたの腫れ、くちびるや陰部のただれ・痛みなどです。

異常を感じたらスタッフにお知らせください。

対策: 皮膚の症状を発見するために、観察が難しい場所は手鏡を使用したり、ご家族など周りの方にみてもらいましょう。皮膚の症状に加えて、発熱や粘膜(口や目)の異常などがあらわれたら、病院に連絡してください。

高血糖

血糖値が高くなることがあります。高血糖の主な症状はのどが乾く、多飲、多尿、体重減少、目がかすむ、疲れやすい、頭痛などです。

好発時期: 治療開始当日に起こる可能性もあれば、しばらく経過してから起こる場合もあります。

対策: 糖尿病を有する患者さんは、定期的に血糖値の測定を行ない、高血糖の症状に注意してください。

あてはまる症状があらわれた場合は、病院に連絡してください。

※この他にも日常と違った症状がでた場合は病院までご連絡ください。

済生会宇都宮病院

代表: TEL 028-626-5500